



# はなみずき

学校教育目標  
「なぜだろう」  
「これでよいのか」  
「さあやるぞ」

## 2月のお話朝会～心の鬼を退治しよう～



校長 鈴木克彦

来週から2月に入ります。よく、1月は「行く」、2月は「逃げる」と言いますが、あっという間に1月が終わり、気がついたら今年度も残すところ2か月となりました。子供たちはいま、体育の授業や休み時間に、「大縄跳び(8の字)」に取り組んでいます。1月27日(火)の体育朝会(大縄記録会)で、各クラス1回目の回数を記録しました。2月24日(火)に、2回目の体育朝会(大縄記録会)があります。記録更新に向け、「みんなで声を出して一緒に数を数える」「失敗は誰にでもあるので、みんなで『どんまい』『まだ、いける』などの声を掛ける」など、気持ち(心)を一つにして、取り組んでいってほしいと思います。

さて、2月3日(火)は「節分」、そして4日(水)は「立春」です。暦の上では「春」になっていきます。3学期に入り、「インフルエンザB型」が流行し、本校でもお休みをしている人や学級閉鎖をしたクラスもありました。2月末には、「6年生を送る会」も計画されています。改めて、「うがい・手洗い」「マスク着用」「十分な睡眠と栄養(食事)」等、自分の生活の見つめなおし、健康な学校生活が送れるようにしてほしいです。



そこで、「節分」についてお話をしたいと思います。

「節分」とは、季節を分ける意味で、昔は、立春・立夏・立秋・立冬の前日の季節の変わり目のことをすべて「節分」と言っていたようです。そして、季節の節目には「邪気」が入ってくると信じられていて、見えない悪いもの(邪気)を鬼に見立て、それらを追い払うために「豆まき」を行うようになったようです。2月3日(火)の夜は、北小学区に「鬼は外」「福は内」などの掛け声とともに豆(いった大豆)をまく音が響くのかなと思っています。



※焼いた鰯の頭を柵の枝にさしたもの(ひいらぎいわし)で、鬼を寄せ付けない魔除けとして玄関口などにつるす家も見かけます。

鬼というと「赤鬼」「青鬼」がすぐに思い浮かぶと思いますが、節分(豆まき)の鬼は、赤鬼・青鬼・黄(白)鬼・緑鬼・黒鬼の5色の鬼がいて、鬼の色には、それぞれ明確な意味(退治したい人間の悪い心)が決まっているようです。

赤鬼は、「わがまま・欲張り(もっと欲しい)」の心

青鬼は、「怒りんぼう・いらいら(すぐかっとする、いらつく)」な心

黄(白)鬼は、「言い訳・甘え(言い訳ばかりする、あんなことしなければ)」の心

緑鬼は、「なまけもの(だるい、やる気がしない)」の心

黒鬼は、「疑い・ひねくれ(人を信じられない、疑い深い)」の心



人は、誰しももっている負(マイナス)の感情(煩惱)があります。強い心もあれば弱い心ももっています。その心の弱さで、鬼の色が決まってきます。2月3日(火)節分の夜に、自分の弱さを退治して、これから頑張るといふ思いを込め、自分に少しでもあてはまると思う「〇鬼」に豆をまいてみましょう。そして、「午年」の常に前を向いて進む、あきらめない心で生活していきましょう。